

「ラウンドテーブル・ディスカッション実施要領」

日本経営診断学会第53回全国大会(於追手門学院大学)では、当学会で初めての試みとなる「ラウンドテーブル・ディスカッション」を実施します。

【ラウンドテーブル・ディスカッションとは】

ラウンドテーブル・ディスカッションは、テーブルを囲み、オーガナイザーが企画したテーマについて自由に意見を交換しながら議論するものである。オーガナイザーと発表者以外にテーブルに着席した参加者は「討論者」として自由に発言することができ、テーブルの周囲に座る聴衆も「オブザーバー」として議論に参加することができる。研究成果を報告するだけでなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題に対する解決策などを持ち寄り、参加者全員で当該テーマについて議論する。これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それをもとに議論することも可能である。目的は自由な意見交換であり、議論した結果が特定の結論に至るとは限らない。

通常、1つのセッションは60分で、1～4件の発表が行われる。半分以上の時間を討論に充て、十分な時間をかけて、オーガナイザー、発表者、討論者が自由に意見交換を行い、テーブルを囲む全員が同じ立場と目線で話し合う。また、議論した内容を踏まえ、オーガナイザーと発表者だけでなく、他の参加者も自身の研究について改めて深く考え、今後の研究をどのように発展させたいか、その内容をセッション内で共有し、さらに意見や感想をやりとりすることで、研究者の交流の場としても活用できる。

なお、本大会では会場設営の都合上、テーブルを口の字(四角)に配置し、椅子を10～15脚程度準備する。参加希望者が多い場合は、周りのオブザーバー用の席を利用できる。

【実施要領】

1. オーガナイザーと発表者のほか、討論者も着席して開始する。なお、途中の入退場は極力控える。
 - ・ オーガナイザー…セッションの企画者
 - ・ 発表者…セッションにおける報告者
 - ・ 司会者…オーガナイザーとともに討論を進行させる者
 - ・ 討論者…テーブルに着席して討論に参加する者
 - ・ オブザーバー…テーブルの周囲に着席している聴衆

注) ケースによっては、司会者を置かず、その役をオーガナイザーが兼任してもかまわない。
2. オーガナイザーが、研究の概要と論点について説明を行う。セッションの半分以上の時間を討論に充てるため、この説明が長くなりすぎないように気をつける。
3. 討論者全員が、ショートコメントをまじえた自己紹介を行う。
4. 発表者の発表の流れに沿いながら、討論者などからのコメントをまじえ、参加者全員で意

見交換を進める。意見が活発に出始め、論点が具体化したら、その流れに任せる。

5. 司会者は、第一の参加者として発言者を助け、テーブルを囲む全員が交流できるよう、オーガナイザーとともに討論を進行する。討論のための時間を確保するだけでなく、参加者に対して発言を促す。ただし、研究報告の主体は、オーガナイザーと発表者であり、討論の主体は、オーガナイザー、発表者、討論者である。発言が順調に進み始めたら、司会者は自然の成り行きに任せる。なお、司会者は、全体の意見をまとめたり、結論づけたりすることに責任を負う必要はない。また、討論者や他の参加者と協力し、時間通りの開始と終了を目指して時間の管理と討論の進行を行う。
6. 今回のラウンドテーブル・ディスカッションでは、討論に加わらず、オブザーバーとして周囲で見学することもできる。しかし、自身の意見を述べるだけでも交流が生まるので、可能な限りテーブルに着席し、討論に参加する。一人でも多くの参加者がテーブルに着席して討論に参加すると意見交換も盛り上がるので、積極的な参加を願う。

※オーガナイザーと発表者は、テーマについて議論できるような発表用の資料(プレゼン用ファイル、配付資料等)を準備してください。発表には液晶プロジェクタ(VGA方式、HDMI方式)を使用できます。PCは各自でご用意いただき、セッション開始前に接続テストを実施してください。

【応募方法】

ラウンドテーブル・ディスカッションを企画されたい方は、「オーガナイザー」として、テーマと概要、オーガナイザーの氏名、発表者の氏名を 5月10日(日)までに大会実行委員会までご連絡ください。その企画の採否を実行委員会が判断し、採択となりましたら、5月15日(金)までにE-mailで連絡いたします。

オーガナイザーは、あらかじめ予稿集原稿として、テーマと企画趣旨等を1ページにまとめたものを 7月 5日(日)までに実行委員会まで提出してください。なお、個別の発表者からの予稿原稿は必ずしも提出の必要はありません。